

助成事業実施報告書

団体名...NPO法人奄美青少年支援センターゆずり葉の郷
代表者・役職名 氏名.....理事長 喜入 博一.....

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

子ども達の夢！ 応援事業～初めての体験旅行～

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

当法人の所長が、学校から排除され行き場のないシンナーを吸っている不良少年達と関わりを持ち、ボランティアで声掛け活動を始めたことが創設のきっかけでした。それから合気拳法を通して、積極的にたくさんの不良少年と関わる機会を持ちました。その活動に賛同してくれる方々の協力の下、NPO法人を開設することとなりました。今では個人会員 160 人、団体 18 となっております。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

子ども達は、様々な理由で入居しています。家族で出掛けることもなく、どこかに連れて行ってもらった記憶もなければ経済面から修学旅行にも行かせてもらえず、楽しかった思い出もありません。子ども達が大人になり過去を振り返ったとき、大きな思い出がなくそれがコンプレックスに繋がり、家族の中で思い出を作り上げる大切さが分からず、将来同じことを繰り返してしまう恐れがあります。今までみてきた視界だけでなく、実際に見て、触れて、体験をする。不足していた感覚や感情を芽生えさせることが必要と感じられました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

当初スタッフは4人程度の引率予定でしたが、子ども達を二班に分けることで勤務状況にも都合がついたことと、事業の予算から(県の理解を得られたため)スタッフのみ引率として支出が認められたことから8人のスタッフで引率することが可能となり、とても手厚い支援が出来ることとなりました。その他は応募申請と同様、テレビでしか見たことのない世界を体験させるべく、ディズニーランドとスカイツリーの体験旅行を実施しました。また、金銭面も勉強できました。担当スタッフと共に総合的な管理のやりくりはしましたが、その時々ので与えられた中で、自分でやりくりをするという課題の下、それぞれが食費・交通費・雑費と使い分けることができました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

参加した子どもの中には、学校や仕事が上手いかず、生活リズムも崩れ、自殺願望さえあった子もいました。そのような暗い表情であった子どもが、目を輝かせ、新しいことを発見し小さい子どもの様なキラキラした表情で楽しそうに話していました。他にもこの体験を通して、お金の使い方を意識しながら貴重なものと捉え、スタッフや周りの子どもの意見・状況を見て聞いて考え、自分なりに判断して行動することが出来ました。またあまり自発的でない子どもが「こんなことをしたい！」と言えた瞬間もあり、勇気と成長を見せてくれました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

課題として、自己表現がうまく出来ない子ども達の思いを、その場のみで聞き出すだけでなく、文章に書き移し表現出来るようになることです。また、展望としては作文にし、真如苑(Shinryoプロジェクト)様へ、感謝の気持ちを返すことが出来ればよいと思います。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし

